

<<東北魂>>を鼓舞する  
電子新聞

発行所 株式会社遊無有

〒207-0005  
東京都東大和市高木 3-315-1-2-2  
http://www.yumuyu.com/  
e-mail:yumuyu@wj8.so-net.ne.jp

# 東北復興

Rising up, TOHOKU!

無料

## 第52号

毎月発行

創刊2016年(平成28年)9月16日 金曜日

2016年(平成28年)9月16日 金曜日



青森 三内丸山

大震災後に予想された  
価値観大転換起きず  
みなさん、ぜひ思いだし  
て欲しい。

### 大震災ショックと縄文文化 ①

震災発生後、皆が口にした価値観大転換は5年後のいまも起きていない。あのときの勢いはいったいどこへ行ってしまったのが。思い切つて発想を大転換し縄文時代に遡つて答えを探してみようではないか?

あの震災が起きてからしばらくは、国中で「震災ショック」があまりにも大きいため、それまで通用していた価値観を根本から大転換しなければならぬとみなが言っていた。しかし、いまではすっかり忘れ去られてしまったようだ。

あのときは、被災者も、被災地以外に居住する国民も、そしてアーティストまでも、茫然自失していた。

「震災ショック」を克服し、新たな一歩を踏み出すには、新たな価値観を打ち立てなければならぬ。みなそう口々に言っていた。特に、時代を先取りすると言われるアーティストといわれる人々は、そのことに強くこだわっていた。

しかし、五年半経つたいま、そのことをすっかり忘れてきた。

れたふりをし、みな、元の手垢にまみれた日常にこそこそ戻ろうとしているように見える。

ほんとにこれでいいのだろうか。

まったく新たな価値観全体というのだから、生き方も、考え方も、宗教さえも含んで、それらが大きく変わる必要があるということであつたはずだ。

筆者は、それはいまでも必要不可欠であると痛切に思う。けつして忘れたふりをしてはならないと思う。そこで、当新聞で、この課題に大胆に挑戦してみようと考えた。

また、あの震災は、千年に一度の震災と言われたが、当新聞は、大胆にもっと拡大して、数千年から一万年という時間軸のなかに位置付けてみようと思う。

そうした全体図のなかで、自然災害と日本、これからの生き方・考え方、そして宗教の問題も考えてみよう

と思う。テーマがあまりにも広範囲なので、今後数回に亘つて連載することにする。

### 3・11と宗教の問題に真正面から切り込む

「震災ショック」といえば、まずは理屈を超越した宗教のことを避けて通る訳にはいかない。

これまでは、遠慮がちに、遠まわしに、3・11と宗教の問題を取り上げてきた。

とても重苦しく、なかなかむずかしい問題であるし、筆者は、3・11では、家族も親戚も失つてはいない。そんな人間がこの問題に真正面から取り組むのは筋違いかとも悩みつ、中心から一歩も二歩も下がったところからこの問題に挑んできた。

しかし、部外者である筆者ではあるが、この問題を避けては先へ進めない。3・11への関わり方は、人さまざまであり、犠牲者



函館出土 中空土偶



大津波



宮城閉上の小さな丘から



奥松島 景観破壊の7.2m防潮堤予定

のご遺族にしても、さまざまである。同じ関わり方はひとつもない。

### 縄文遺跡にはまり込む

また、筆者は、大震災後の約三年間で、東北、新潟、長野、北海道、山梨、東京の縄文遺跡巡りをしてきた。なぜか知らないが、震災

後、縄文という超古代の文化に触れてみたいという欲求が心の奥底から突き上げてきたのである。

今般は特に、九月二日から六日までの五日間で、東北と北海道、そして長野の縄文遺跡と付随する資料館・博物館を集中的に見

て回つた。数えてみたら、二十カ所であつた。

遺跡を見て、土器などの出土物を見て、縄文の生活復元の様子を見て回つた。短期間で集中的に見ること、ひとつずつ見ることと異なり、共通性や縄文のエッセンス、バリエーショ



爆発する福島第一原発

ンが理解できるのではないかと考えたのである。なぜここに来て急に、集中的な縄文遺跡巡りをしたのかについては、そこに「震災ショック」への答えが隠れていて、集中的に回ればもつと深い何かが見つかると思つたからである。

### なぜ「震災ショック」と縄文文化なのか

しかし、この記事を書くにあたっては、かなりの勇気が必要だった。縄文文化に興味のない他人に対し、縄文文化が趣味と言つただけで、かなりの変わり者と思われる。そこに加えて、「震災ショック」の関係を縄文文化を取り上げたと言つたら、もつと変人に思われるにちがいないと心配したからである。それから、多くの人がま



山のように積まれた汚染土壌

きが多いだろう。縄文時代は今を遡ること、少なくとも三千年以上昔の時代であり、その起源といえば、今から一万五千年も前の時代であり、現代で起きた3・11とどう結びつくのか、あまりにも突飛すぎについていけないと思われ

### 高台移転工事で出現した縄文遺跡で工事遅延

縄文遺跡と東北復興の関連を取り上げるのをためらった理由がもうひとつある。それは、3・11の津波により被災した住宅の高台移転のための道路整備工事、復興のための道路整備工事、その他復興関連工事の際に、突如出現した縄文遺跡が、復興の進展を妨げていると言われてきたことだ。

筆者は考古学の専門家ではないので、詳しくは知らないが、「埋蔵文化財」が発見されるケースの大半は公共工事が発端であると思う。それ以外のケースはまれであらう。したがって、こうした機

が必要で、発掘専門員の手配、発掘からの調査報告書の制作などで、工事中断期間が長引くのである。おまけに、あまりにも多く「埋蔵文化財」が出現したせいで、発掘予算は使えず、入出は足りない、多くの工事は宙ぶらりんで待機状態となつてしまった。

- ① 岩手県の遺跡数 県内には、縄文時代や古代を中心に二五〇五カ所の遺跡があり、沿岸十二市町村では三千六百三十五カ所が確認されている、今回、発見に至ったものも多数あるだろう
- ② 岩手県 大船渡市 集団移転候補の越喜来湾近辺高台で縄文中期集落跡が見つかった
- ③ 岩手県 山田町 集団移転候補地高台に埋蔵文化財発見
- ④ 岩手県 野田村 集団移転のための造成予定地で縄文遺跡や平安時代の住居跡発見
- ⑤ 宮城県 多賀城市 当新聞でも取り上げた「山王遺跡」が多賀城インターチェンジ付近で見つかった
- ⑥ 宮城県 南三陸町 中世戦国時代の館跡等の遺跡が見つかり、用地選定が難航した

会がないかぎり、「埋蔵文化財」はずっと土中に埋もれたままなのである。今回は、この公共工事が、三陸被災地のあちらこちらで頻発した結果、こうした事態に至つたものと推察される。それにしてもすごい数であり、以下主なもののみを列挙してみる。

高台で発見された縄文遺跡が教えること  
ただでさえ復興が遅れて精神的に余裕がないところ

復興優先？調査必要？  
当然の成り行きで、「埋蔵文化財」などより、いま生きていく人間である被災者を優先して、発掘調査など不要だという意見が出てくる。いったいどちらが大



奥松島 里浜貝塚 5000～6000年の間に集落を何度も移動した

では、縄文遺跡が高台から発見されたことを冷静に考える余裕もないかもしれぬが、このことが教える意味をよくよく噛みしめるべきだと考える。

もう同じことを二度と繰り返してはならないし、子々孫々にもこのことを語り継がなければならぬと切に思う。

ともかく、結果的には、あまり洞察力があるとは思えないお役人発想の企画である高台移転で、縄文遺跡が発見され、発見されたことと、これまでの海辺のすぐそばまで延長し続けてきた住宅建設許可行政が、こうした被災を招いたという二重の皮肉が、ここに込められていると思う。

また、3・11で、多くの縄文遺跡が出現したというのは、何かとても因縁めいて思えるのは、筆者だけではないのではないか。

(続く)

## 連載

# 出羽三山修験道について③ さまざまな思想を包含した 修験道は実践の教えである



羽黒山開山堂 蜂子神社

出羽こそ最古の修験道で「古修験道」発信地

連載一回目では、修験道でない山岳信仰の盛んである

つた場所として、熊野三山、奈良の大峰山、石川の白山があると記載した。なかでも、熊野三山や大峰山は大和朝廷にも近く、時の天皇の訪問もあったであろうし、そのことによる権威も増したことだろう。これらの場所に対して、出羽三山も自らの位置付けを積極的にアピールしたいと思うのは当然の成り行きである。

しかし、修験道の開祖も役小角(えんのおづぬー634~701)とされており、そのままでは後発の位置に甘んじなければならぬ。そこで登場するのが、天皇家ゆかりの出羽三山開祖

の崇峻天皇の皇子、蜂子皇子(「能除仙」)のうじよせんと同一人物(562~641)である。現時点で言われている生没年からすると、蜂子皇子の方が先であり、役小角が後になる。そこで、出羽三山神社によれば、役小角開祖の修験道に先立つ出羽三山信仰を「古修験道」と称して、修験道に先行するものとして

いる。いわば、出羽三山こそ先であるとの主張である。開祖である能除仙は第32代崇峻天皇の皇子で、大峰修験や熊野修験が開祖と仰ぐ役行者(7・8世紀頃の呪術者)より時代が早く、身分も貴い方

である。また修験道の最高の法儀である柴燈護摩は、わが開祖が役行者に授けたものであるという伝承から、羽黒山こそ修験道の根本であるとして「古修験道」と称している(出羽三山神社HP)



三神合祭殿

神道に先行するものとして

は別に、修験道のルーツないしその思想の「構成要素」は想像以上に古いものも存在する。

修験道に流れ込んださまざまな思想

よく言われるように、修

験道は、仏教に先行する古代からの山岳信仰などと仏教が混淆したものであるという説明が一般的である。だが、仏教だけでなく、日本古来の神道や山岳信仰も、さらには渡来の思想なども含め、もつといろいろな思想が混淆している。

神道と古神道と山岳信仰

まずは、日本古来の神道にしても、古神道にしても、山岳信仰にしても、その起源はあまりにも古すぎて、今となってははっきり分らないが、それらの原形は日本に縄文人が暮らし始めたときから徐々に形成されてきたものの一部といっても過言ではない。

特に出羽三山信仰であるが、日本という狭い地域に、世界の火山の割が存在しているのだから、当然ながら、他の地域よりもはるかに、山との関わりが深くなるのは当然である。

密教

また渡来の密教も流れ込んでいる。密教はよく仏教と対比されることが多いが、空海が中国から持ち帰ったのは密教である。しかもその密教は、教義体系として日本にもたらされたというよりも、仏像という形あるものとしてもたらされたと言える。これに関連し、修験道の本尊である蔵王権現(ざおうこんげん)は、その仏像

の影響を受け、なかでも明王像の影響を強く受け、日本で独自に創造されたと言われている。

陰陽道

また、影響を受けた渡来の思想には陰陽道があり、安倍晴明で一躍有名になったが、映画で見ると悪霊退散の呪術だけではない。中心教義である陰陽五行説については、日本ではあまり詳しく解説されていないが、天文、暦、時刻、易占いなどがあり、複雑で、多義に亘っている。

その伝統はいまでも、日常生活の隅々にいたるまで浸透している。

道教

あとは道教である。道教とはもともと、漢民族の土着的、伝統的な宗教である。中心概念の道(タオ)とは宇宙と人生の根源的な不滅の真理を指す。この道(タオ)と一体となる修行のために錬丹術を用いて、不老不死の霊薬、丹を錬り、仙人となることを究極の理想とする。

前述した役小角も、修験道の開祖というだけでなく、仙人としての一面もある。

修験道とは体系化されない実践の教え

こうした様々な思想や宗教が混じり合ったのが修験道である。神仏習合どころではない。何でも飲み込んだ宗教であり、たくさんの

要素が入り混じっている。しかし、修験道の教義として体系化されたものはない。教義は、以下にもあるように、それぞれの「構成要素」の教義を援用する。

修験道は神道・密教・陰陽道・道教などを取り入れ、それらの教説や教義と習合して成立していることから、独自の教義や教法はなく、あくまでも目的を達成するための手段と

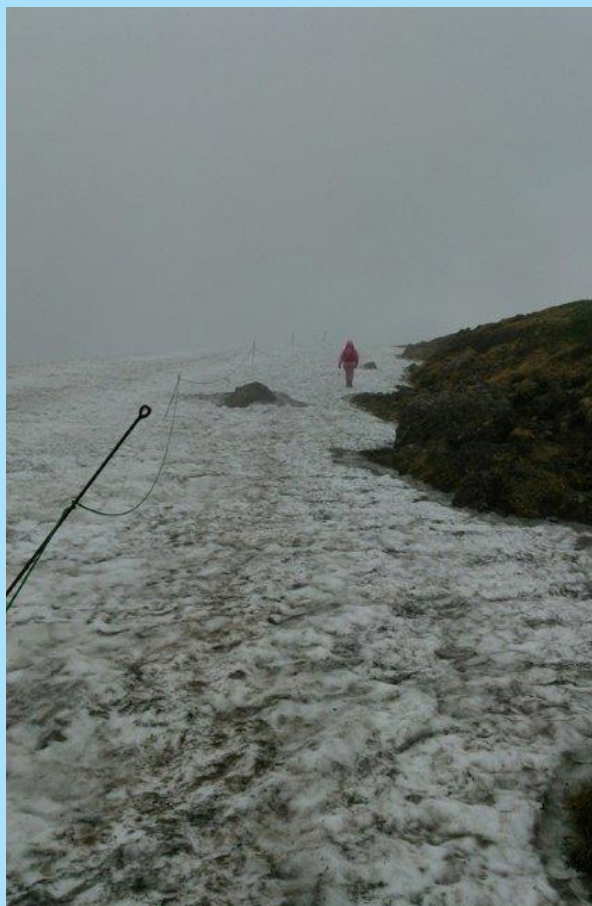
方法を重んじる(出羽三山神社HP)

修行実践主眼

体系化された教義はないというの、神道や古神道にも似ていると思う。ことさらに理屈をこねない日本の伝統なのであろうか。また、キリスト教やイスラム教の教義のように、ゴシック建築のようながっちりした教義は日本にはなじ

まないのかもしれない。それよりも実践であり、山に登ることであり、そのプロセスが大事だと主張しているように思える。

山は神々の住まわれる異界であり、山登りという修行を通して、人間は神の霊威をいただき、成長し、生まれ変わるといふことを実践していくことが主眼だと教えているように思える。



月山雪渓



天然記念物 爺杉

# うまい東北地酒と 三陸海鮮の会 第22回 三陸酒海鮮会の渋谷開催



東北地酒ラインアップ

毎年、暑い季節の三陸酒海鮮会は参加者が少なくなるだろうと八月は避けておりました。  
しかし、今回は八月二十七日開催でしたが、東

北地酒だけでなく、銀河高原ビールもあることで、参加者も増えるだろうと当初は思っておりました。  
しかし、開催日が近づいてもなかなか増えず、どうしようかと不安になりました



豪華な刺身



銀河高原ビール

た。そこでお店の店長さんにご相談したら、東北復興に興味ある友人や知人を誘っていただき、何とか十二名の参加となりました。ほっとしました。  
初参加の人もおりましたが、にぎやかな会となりました。

え、地ビール。そこにおいて、かなり豪華なお刺身も加わりました。  
さらに、三陸の海鮮ではありませんが、お店の人気メニューのお肉類もたくさん出ました。  
盛り上がりすぎて、当初用意したお酒が足りなくなり、何度か追加することになりました。さすがに若手だけあって、非常に元気いっぱいなの会となりました。

## 第25回 水産業再興のための料理レシピ紹介

### 【カツオと玉ねぎのコチュジャンあえ】

宮城産カツオの刺身を使った料理です!



日本酒を飲みながら食べたら、さらにおいしいでしょうね!



郷土料理愛好家  
松本由美子氏

### 一簡単レシピ

【材 料】 材料〈2人分〉 カツオ(刺身用)160g

〈a〉 醤油 小1、生姜汁 少量、玉ねぎ(薄切り)1/2個(100g)、黄パプリカ 50g、小ネギ 1/4束(ここではカイワレ)

〈b〉 コチュジャン・砂糖・酢・すり白ごま…各 1/2、にんにくのみじん切り…小 1/2

### 【作り方】

- ①カツオは、ひと口大に切り 〈a〉 をからめて 10分おきます。
- ②玉ねぎは水にさらして水けをきる。パプリカは薄切りにする。
- ③ ボールに 〈b〉 を入れて混ぜ合わせ、食べる直前に①と②をあえる。

# 「未来会議」の アプローチ

## 「未来会議」発足の経緯

9月4日に開催された「未来会議」に参加した。未来会議というのは、福島県いわき市で2013年に始まった、寛いだ雰囲気でも誰もが参加できるワークショップ形式の対話の場である。

震災と原発事故によって、いわき市はものすごく難しい立場に立った。地震と津波による紛れもない被災地でありながらも、福島県の浜通り地域最大の都市として福島第一原発の周辺自治体から2万人以上もの避難者を受け入れた。その一方で、被ばくへの不安からいわきから自主的に避難した市民もいた。原発周辺の避難者は東電からの賠償金を得たが、いわき市民は風評被害に悩まされつつその補償は何もなかった。そのような立場や考えの異なる人

たちがいわき市の中には多くいて、互いに本音では話しづらい雰囲気があった。人々の間に分断と軋轢をもたらしていたのである。

そうした中、2012年秋に、東日本大震災復興支援財団による子ども被災地支援法の聴き取り対話ワークショップが開催され、そこに参加した数名の有志によって、「未来会議」開催に向けての動きは始まった。「継続的な対話の場が、多くを抱えるこの地域には必要なのではないか?」「異なる価値観や違いはむしろ財産ではないか?」「対立ではなく一緒に考えていることが大切なのではないか?」「失敗してもいい!という雰囲気の中で互いを伸ばし合うことが、未来への種を育むことに繋がるのではないだろうか?」といった考えから、「多様な声に耳を傾け、自分出来ることを考える時間をもちた

い」ということで、未来会議のコンセプトが形成されてきた。

そして2013年1月に現在まで続く「未来会議」がスタートした。いわき市民はもちろん、双葉郡など原発周辺の自治体からいわきに来て人、福島県内外の人、支援者としていわきに来て人など、地域年代関係なく様々な職業や立場の人が集まる場となっている。

こうして発足の経緯から、未来会議では「相手の意見を否定しない」「一つの結論を指さない」をルールとしている。2014年1月に開催された会議では、子どもの被ばくに対する不安から給食の地産地消に反対する主婦と、風評被害に悩む農家が、同じくゲストとして会議の中で、それぞれの意見を表明していた。

## 「未来会議」の特徴

①この場合は、真っ白なキャンパス。主体は参加する一人ひとり。ニュートラルな場として30年の継続開催を予定しています。

②現状や課題を、共有・可視化し、未来のために出来ることを創造的に話す場です。

③地域の枠を越え、福島の実情を多様な人々と共に捉え、様々な角度から考えます。

④ワークショップ対話手法を取り入れ、誰もが安心して参加出来る場を目指しています。

⑤未来をつくるためのプラットフォームとして、人と人、人と団体、団体と団体が出会い、ネットワークを形成するきっかけを提供します。

互いに主張しても、意見の相違は完全には解消できないかもしれない。しかし、違う立場の人が対等に出来る機会をつくることによって、そこにいる人々全てに気付きをもたらし、変化を促すことができる。未来会議では考えている。重要なのは対話することによって、目下の課題を可視化し、かつ価値観の多様性を互いに認め合うこと、互いの立場を尊重して批判はしないことであった。

⑥浮かびあがってくるものをアーカイブとして残します。

とりわけ印象に残ったのは、「30年の継続開催」である。こうした会が30年続いたわけである。

似たような名前の会議は東日本大震災の被災地を始め各地に存在するが、このいわきの未来会議はそれらとは一線を画したユニークな会議である。まず、各地の「未来会議」は行政主導で立ち上がったものが多いが、ここの未来会議は、行政関係者も参加者として参加しているが、立ち上げたのは地元有志である。そして、未来会議は自らを次のように規定している。

## 「未来会議」の手法

9月4日の未来会議は13回目の開催とのことであった。100名を超える参加のあったこの日のテーマは「それぞれの、ふるさと」で、ふるさとというのは町という場所なのか、町を構成していた人なのか、それとも人を含めた場所なのか、そしてまた景色が変わってしまった町をふるさとと呼ぶのか、といった観点から、人々のふるさとに対する想いについて取り上げられた。

まずゲストに作家の柳英里氏と勿来ひと・まち未来会議会長の室井潤氏を迎え、事務局で双葉郡未来会議主宰の平山勉氏が進行役となつて行うトークがあり、その後広島修道大学の田坂逸朗氏がファシリテーターを務める対話ワークショップが行われた。今回は、話し合ってみたいふるさとのテーマについて参加者から13のテーマが出され、他の参加者は自分の関心があるテ

ーマのところ集って対話を行った。

震災関連のイベントは仙台など被災地各地でも各種開催されており、私自身何度か企画開催しているが、この未来会議、いろいろな工夫が随所に感じられ、とても勉強になった。このトークとワークの組み合わせは、聞くだけでも話すだけでなく、インプットとアウトプットの両方があるという形であると思った。

特筆すべきは、そのトークについてもワークについても、ファシリテーショングラフィックという手法を用いて、その専門家である玉有朋子氏が会場に貼り出された大きな紙にリアルタイムでヴァジュアルも交えてその要点を書き記していたことである。目で見分ける議事録がその場でできているようなもので、参加者同士がそれを見ながら話すことで、さらに対話が進み、話が膨らむように感じられた。

## 「未来会議」の広がり

他地域からの参加がこれだけ多くあるその求心力もすごい。30年の継続開催を打ち出しているこの未来会議、そのためいわば次の世代に引き継ぐことまでを視野に入れた取り組みも既に実施している。実際、この日の午前中には2回目となる「子ども審議会」が開催されており、小中高生と大人が一堂に会して対話を行っていた。

未来会議から派生した企画も数多い。この子ども審議会、深夜のバーのような親密でゆったりとした雰囲気の中、のんびり飲み物を飲みながら一緒にゲストの話に耳を傾ける「MIRAI BAR」、双葉郡8町村固有の課題について話し合う「双葉郡未来会議」、子どもが一人でも来られる居場所として実施している「こども食堂\*みらいのたね」かつて地域に開かれた対話

の場でもあった旧暦二十三日の下弦の月の月待講を復活させた「廿三夜講復活プロジェクト」など、活動はさらに広がりを見せている。未来会議終了後は、「夜の未来会議」と称する懇親会が行われた。「夜の未来会議」は13時から17時の4時間であったが、この「夜の未来会議」は18時から始まり、22時半で中締めとなったものからさらに参加者相互の対話が続いており、夜の部の方が昼の部よりも長いわけである。未来会議の対話を重視する姿勢がここでも窺えた。

この未来会議、当初は「いわき未来会議」と称していたが、いわきだけの未来を考えるといわきではないということから、名称から「いわき」を外して「未来会議」とい名称になったという。確かに、震災から先

## 「未来会議」の広がり

の未来を考えるために、いわき市内だけでも福島第一原発のある双葉郡だけでなく、東北の太平洋沿岸の被災地のみならず全国各地から様々な人が集い、対話する、そのような場にこの未来会議はなりつつあるように見える。

多様な背景を持った人と人が出会い、それぞれが感じていることを共有し、お互いの立場や考えの違いからも気づきや学びを得る。そうしたアプローチの中から、一人ひとりが震災からの一歩を踏み出すきっかけをつかむ場、あるいは疲れた時にいつでも戻ってこれる場となる。未来会議が目指すこうした目的を実現するためには、確かにこの会議は一過性のものであってもならず、継続開催していくことが必須なのであろう。30年先の未来会議の「未来」がどのようなものになっているのか、ぜひ今後注目していきたい。

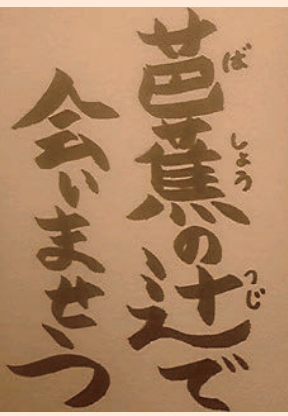
## 執筆者紹介

大友浩平 (おおともこうへい)  
奥州仙臺の住人。普段は出版社に勤務。東北の人と自然と文化が大好き。趣味は自転車と歌と旅。  
「東北ブローグ」  
http://blog.livedoor.jp/anagmasi/

Facebook  
https://www.facebook.com/kouhei.ootomo



連載  
むかしばなし



第四十話  
邂逅の大古墳

大天狗の森への行く手を阻む、深い峡谷から撤退した頼朝率いる探索部隊が、更に西の烏鬼森から戻った部隊と合流した頃には、夕刻の朱がすっかり西方へ遠のいていた。

「何かあったか。」  
頼朝は武蔵高尾山から従軍する山伏の報告を乞うた。

「烏鬼森は、小さいが極めて強力な霊山です。登頂致したところ、頂に奇怪な巨樹の根の狭間に拵えた石の祠がありました。我ら祈禱し神意を乞いましたが、何事も起きぬ為下山しかけま

「国衡は今宵、山を降りる・つまり我らを襲うという訳か。その前に河を越える、と？親切な事だ。」  
東の草原を騎馬武者の一群が駆けて来る。先頭は、頼朝と同じ源氏一族の足利義兼である。



奥羽現像氏紹介

一九七〇年山形県鶴岡市生。札幌、東京を経て、仙台に移住。市内のケルト音楽サークルに所属し、あちこち出演し演奏する。フィドル(ヴァイオリン)担当

名取主流の柵は開放する、との事。」

「要するに、とつと南へ尻尾を巻いて退散しろという訳か。蝦夷ごときが。」  
二人は他の家臣から離れ、話は即、内密めいた。

「殿・此度の進軍、何としても貫徹せぬ訳には参りませぬかな。」  
「何を申すか、ぬし」

「逆賊九郎義頼とそれに与した奥州の泰衡・これらを討つ事は大義なれど、あまりにも思いがけぬ、得ても知れぬ敵がこの地には多すぎます。無論、ここま

「奥州の空には、破軍星が瞬いている。星は撃ち落とす事も、向きを変える事もできぬ。我がその標的とならぬ為には、敵ではない存在となるしかない。つまりは、奥羽を完全に我が物とするか、残るは破軍星そのものを奪うかだ。」

「それはそれは、美しい女の姿をしているらしいぞ。」  
「ご、後白河院からの？」

「昔、我が遠祖・頼義が義兼が目を剥く。」

清原を配下とした、源氏と安倍の戦のままで、到底勝ち目がなかったのだ。」

「お話が見えませぬが。」  
「つまり、奥羽国内の内紛という形にしなければ。」

「な・何ですと。そのよ

「是非もない、護法よ」  
太郎は疑念を膨らませ、又墓丘を昇りながらも、

「それこそ偽りを恥じよ。その鎧の中心、護法善神などではあり得ない。そないな威光、一切感じぬぞ。」

「聞きとるに、五年前前に佐殿が、長くやめとなられていた奥方に艶書を送られたとか。それも一度ならず二度ならず。」

「だからそれがどうした」と

腕で目を守っていた僧形の若者に、傍らに立つ鎧を着けた巫女が言う。

「この墓丘の主・即ち古代のこの地の王はお望みです。丘を土俵として戦い、負けた方がこの墓守に、勝った方がこの地全域の守護者となられる事を。」

「へえ・それはつまり、人間のままで務まるものなのかね、それとも、奴みたいに雷様とかにならないと駄目なのか？」

「是非もない、護法よ」  
太郎は疑念を膨らませ、又墓丘を昇りながらも、

「それこそ偽りを恥じよ。その鎧の中心、護法善神などではあり得ない。そないな威光、一切感じぬぞ。」

「聞きとるに、五年前前に佐殿が、長くやめとなられていた奥方に艶書を送られたとか。それも一度ならず二度ならず。」

「だからそれがどうした」と

「上総義兼の事ですな・そういえば鎌倉殿。弟御右兵衛権佐殿は女色にも並々ならぬお方なようで。」

「義兼の叔父、新田義重殿の父君と我が父・俊綱は共に義朝殿の拳兵に応じた仲・貴殿の奥方は、その義重殿の娘御であったな。」

「聞くとところによると、五

「聞きとるに、五年前前に佐殿が、長くやめとなられていた奥方に艶書を送られたとか。それも一度ならず二度ならず。」

「それこそ偽りを恥じよ。その鎧の中心、護法善神などではあり得ない。そないな威光、一切感じぬぞ。」

「聞きとるに、五年前前に佐殿が、長くやめとなられていた奥方に艶書を送られたとか。それも一度ならず二度ならず。」

「だからそれがどうした」と

「こやつを着込んだこの鎧、舐めてはいかんぞ。わが祖・依藤太秀郷が百足退治の功により龍王に賜りし。」

又太郎が言い終わらぬうちに次から次へと怖ろしい稲光が襲い掛かる。丘の上の樹々も忽ちのうちに砕け、火に包まれていく。

「くそ！無粋な輩。相手の口上も尊重せぬとは。」

「聞きとるに、五年前前に佐殿が、長くやめとなられていた奥方に艶書を送られたとか。それも一度ならず二度ならず。」

「それこそ偽りを恥じよ。その鎧の中心、護法善神などではあり得ない。そないな威光、一切感じぬぞ。」

「聞きとるに、五年前前に佐殿が、長くやめとなられていた奥方に艶書を送られたとか。それも一度ならず二度ならず。」

「だからそれがどうした」と

「綾糟殿はお戻りにならぬのか。」

「青葉山」の大天狗の岩で、芭蕉が溜息をつく。無為に一日が過ぎていく。皆の立つ崖の上に張り出した、展望台のような櫓に立っている、強まる雨の向こう、遙か南方で稲妻が随分走っているの見える。

「聞きとるに、五年前前に佐殿が、長くやめとなられていた奥方に艶書を送られたとか。それも一度ならず二度ならず。」

「それこそ偽りを恥じよ。その鎧の中心、護法善神などではあり得ない。そないな威光、一切感じぬぞ。」

「聞きとるに、五年前前に佐殿が、長くやめとなられていた奥方に艶書を送られたとか。それも一度ならず二度ならず。」

「だからそれがどうした」と

「だからそれがどうした」と

「烏鬼森には西木戸太郎、広瀬河には大河太郎、河田次郎、そして泉三郎・妖怪の眷属が勢揃いしたな」

純三が驚いて問う。  
「塩竈社から烏鬼森へ引かれた結界のお陰ね。見えない目だから、よく見える」

「聞きとるに、五年前前に佐殿が、長くやめとなられていた奥方に艶書を送られたとか。それも一度ならず二度ならず。」

「それこそ偽りを恥じよ。その鎧の中心、護法善神などではあり得ない。そないな威光、一切感じぬぞ。」

「聞きとるに、五年前前に佐殿が、長くやめとなられていた奥方に艶書を送られたとか。それも一度ならず二度ならず。」

「だからそれがどうした」と

「だからそれがどうした」と

シリーズ 遠野の自然  
「遠野の白露」  
遠野 1000 景より

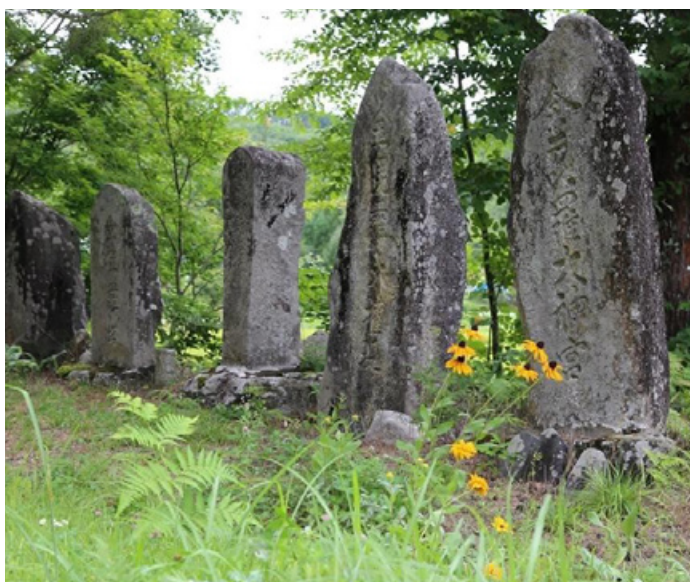
夏を迎えるまでは、今年  
は台風発生が非常に少ない  
と言っていたのに、先月末  
から今月にかけては、まさ  
に台風ラッシュともいうべ  
き状況に日本全体が見舞わ  
れた。

地球温暖化による異常気  
象のせいか、時間当たりの  
雨量も、台風のルートも異  
常で、九州の南にあつて、  
そのまま北上するかと思わ  
れた台風が関東を経由して、  
一旦太平洋に出てから、プ  
ーメランのように東北と北  
海道を襲った。

遠野もこの台風に襲われ、  
一部地域では避難指示も出  
たし、孤立を余儀なくされ  
たところもあった。  
自然はやはり制御不能で  
あり、人間の思惑など超越  
していると感じる。

今回号で取り上げた写真  
は、台風関連ではない。  
遠野らしい風景や伝統的  
な景色を中心に、若干の彩  
りも加えてみた。

\*  
まずは石塔である。「路



石塔 小出待華

傍に石塔の多きこと諸国そ  
の比を知らず」(『遠野物  
語』前文より)と言われる  
遠野である。二つの石塔を  
掲載した。

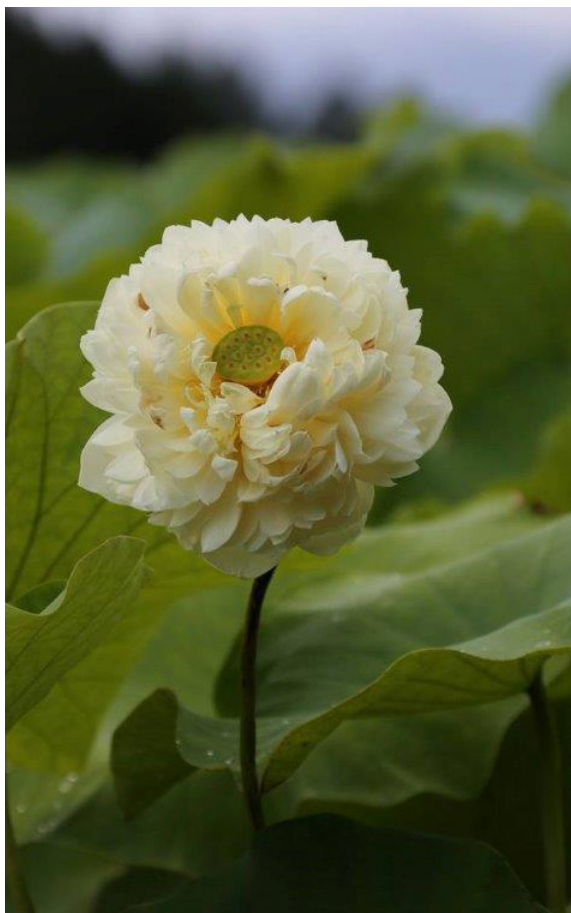
「トロゲ(灯笼木)」は、  
遠野地方では不幸があった  
家庭ではお盆に3年間、男  
性なら白、女性なら赤色の

旗と灯笼を掲げる風習があ  
るとのこと。

「邸内社」の木製の二重  
の鳥居が遠野らしい。  
また、灯笼もこれだけの数  
が並ぶと壮観だ。  
彩りは、テッポウユリ、  
めずらしい黄色のハスと紫  
色が鮮やかなサワギキョウ。



テッポウユリ



ハス池にて



石塔 山神



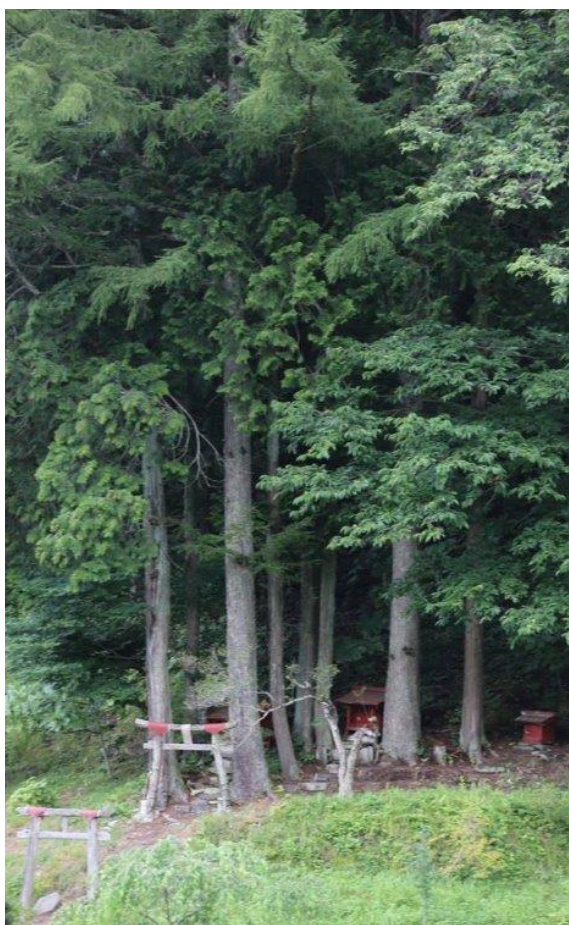
トロゲ(灯笼木)



お盆 灯笼



サワギキョウ

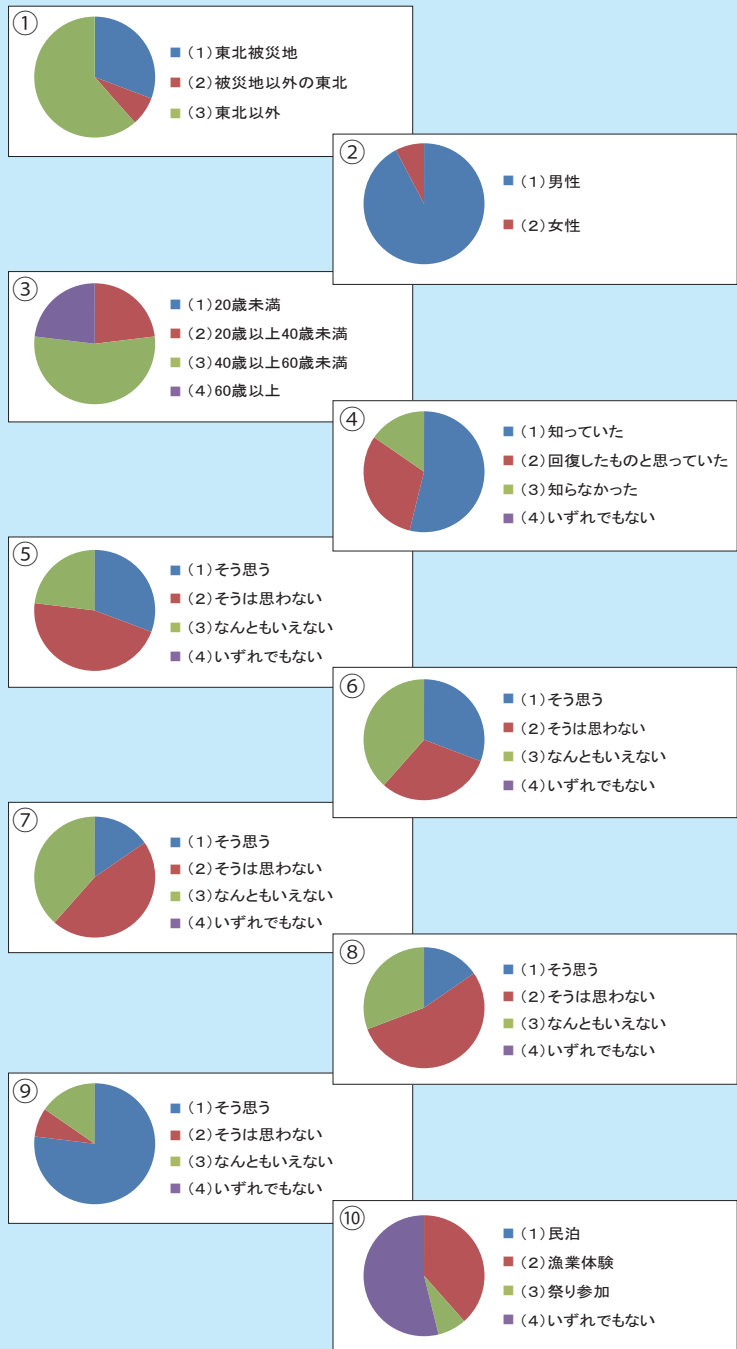


邸内社

## 第51号 ネットアンケート集計結果

### 【三陸沿岸への観光客が減少したままであることについて】

NO.	質問と選択肢	回答数
①	住所	
	(1) 東北被災地	4
	(2) 被災地以外の東北	1
	(3) 東北以外	8
②	性別	
	(1) 男性	12
	(2) 女性	1
③	年齢	
	(1) 20歳未満	0
	(2) 20歳以上40歳未満	3
	(3) 40歳以上60歳未満	7
	(4) 60歳以上	3
④	観光客の減少継続は知っていた?	
	(1) 知っていた	7
	(2) 回復したものだと思っていた	4
	(3) 知らなかった	2
	(4) いずれでもない	0
⑤	交通インフラ復旧遅れが原因か?	
	(1) そう思う	4
	(2) そうは思わない	6
	(3) なんともいえない	3
	(4) いずれでもない	0
⑥	犠牲者発生場所へ行くのは遠慮がある?	
	(1) そう思う	4
	(2) そうは思わない	4
	(3) なんともいえない	5
	(4) いずれでもない	0
⑦	観光に出向くほどの魅力がない?	
	(1) そう思う	2
	(2) そうは思わない	6
	(3) なんともいえない	5
	(4) いずれでもない	0
⑧	他の被災地発生のために行かない?	
	(1) そう思う	2
	(2) そうは思わない	7
	(3) なんともいえない	4
	(4) いずれでもない	0
⑨	新観光企画があれば行く?	
	(1) そう思う	10
	(2) そうは思わない	1
	(3) なんともいえない	2
	(4) いずれでもない	0
⑩	新観光企画とは何か?	
	(1) 民泊	0
	(2) 漁業体験	5
	(3) 祭り参加	1
	(4) いずれでもない	7



### 減少したままの三陸の観光客を増やすには?

今回は「三陸沿岸への観光客が減少したままであることについて」であった。大震災から五年以上が経過したにもかかわらず、宮城の三陸沿岸部への観光客数は大きく減少したままという。なぜなのか。打開策はあるのかについてお聞きした。回答者数は十三名。

④ 「観光客の減少継続は知っていたか?」は「知っていた」が約53.8%、「回復したものだと思っていた」は約30.8%、「いずれでもない」は約15.4%、「知らなかった」は約1.0%であった。

⑤ 「交通インフラ復旧遅れが原因か?」は、「そう思う」が約46.2%で、「そうは思わない」が約30.8%、「なんともいえない」が約15.4%、「いずれでもない」は約8.7%であった。

⑥ 「犠牲者発生場所へ行くのは遠慮があるか?」は、「そう思う」が約30.8%で、「そうは思わない」が約46.2%、「なんともいえない」が約15.4%、「いずれでもない」は約8.7%であった。

⑦ 「観光に出向くほどの魅力がないか?」は、「そう思う」が約15.4%で、「そうは思わない」が約46.2%、「なんともいえない」が約30.8%、「いずれでもない」は約8.7%であった。

⑧ 「他の被災地発生のために行かないか?」は、「そう思う」が約15.4%で、「そうは思わない」が約46.2%、「なんともいえない」が約30.8%、「いずれでもない」は約8.7%であった。

⑨ 「新観光企画があれば行くか?」は、「そう思う」が約76.9%で、「そうは思わない」が約7.7%、「なんともいえない」が約15.4%、「いずれでもない」は約0%であった。

⑩ 「新観光企画とは何か?」は「漁業体験」が最も約38.5%だったが、選択肢の正解を外してしまった観がある。(反省)

でも打開策について何らかの希望があると読めた。

### 編集後記

今月のトピックはなんと、五日間連続の「北東北と南北海道と長野の縄文遺跡巡り」でした。数え上げてみたら、なんと二十三か所を巡りました。どつぷりと縄文遺跡の五日間でした。

家内には、北東北と南北海道だけでも呆れられました。四日目に北海道から深夜に帰宅し、翌朝の五日目に長野に行くとした時は、かなり驚かれました。

＊

これまでも縄文遺跡は、ときどき見て回っておりましたが、急に、一挙に、集中的に、遺跡を見てまわりたくまりました。

人に話したら、余計おかしい人と思われるかもしれませんが、何か、縄文遺跡に呼ばれているような気がしました。

最近、教科書から縄文に関する記述を削除しようとか、いまよりもずっと少ない記述にしようという動きがあるようですが、縄文人から、かつての姿を正しく伝えて欲しいと言われているような気がして、今般の遺跡巡りに至ったように感じています。

近年、縄文遺構発掘が頻繁に行われ、新発見もあります。日本人の祖先である縄文人をもっと大事にしなくてはならないと思うこの頃です。

### 「東北を世界に！」プロジェクト募集

- プロジェクト募集要領
- ① 東北の復興、活性化、再興を目的としたプロジェクト企画であれば、何でも可
- ② 応募資格は特に定めず、被災地、被災地以外の居住も問わず、国籍・年齢・性別を問わず
- ③ 企画書のようなものがあれば可---形式自由(プロジェクト名、プロジェクト期間、目的、どうやって実現するかの手段、仲間などを明記していただきたいと思ひます)
- ④ 〆切はとくに設けません

### 「東北を世界に！」プロジェクト募集

- 連絡先/企画提出先
- (郵送) 〒207-0005 東京都東大和市高木3-315-1 ホームタウン宮前2-2 電子タブloid新聞【東北復興】宛
- (メール) yumuyu@wj8.so-net.ne.jp
- ご提案いただいた企画については、当新聞で責任をもって検討させていただいた上で、企画開始に向けてのしかるべき方法・手段をご提案するなり、企画実現のための仲間を募ってまいりたいと考えております。また、当新聞でご紹介させていただきたいと思ひます。(氏名公表か非公表かはご相談)
- たくさんのご提案をお待ちしています